



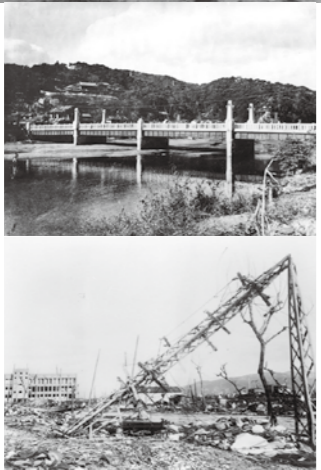
## 建物疎開のために 広島へ向かった 玖波・小方・大竹の **義勇隊**



昭和19年に入り、太平洋戦争の戦況が悪化する中、国民総動員のもと編成された国民義勇隊。  
 昭和20年8月の初めに、玖波、小方、大竹の役場にそれぞれ、建物疎

開の動員命令が出された。動員開始日となる6日は、広島市以外のまちから約1万人が建物疎開作業に動員されることとなっていた。  
 命令を受けた玖波、小方、大竹の人たちは作業服に身を固め、玖波隊105人は玖波駅から、小方隊は86人のうち26人が玖波駅、60人が大竹駅から、大竹隊は798人が2便に分かれて大竹駅から電車で広島へと向かった。  
 各隊は己斐駅到着後、小方隊は土橋・十日市付近へ、玖波隊は小網町付近へ、大竹隊の先発隊は、天満町付近に到着し、作業にとりかかろう

(上)先発の大竹隊が被爆した天満町にある天満橋のようす。電柱が倒され、まちは形はない。  
 (中)後発の大竹隊が、この己斐橋を渡って目的地に向かおうとしていたときに爆発が起こった。ここでもかなりの衝撃波が人々を襲ったという。  
 (下)小方隊が作業にとりかかろうとしていた土橋付近のようす。鉄柱は折れ、見える建物も骨組みだけとなっている。【写真：広島平和記念資料館提供】



# 突然の惨劇に遭遇した大竹の民

昭和20年当時、大竹市域に住んでいた旧制中学生以上の学生は、ほとんど広島市の学校に通っていた。その多くの学生が学徒動員令により、事業所・工場での作業や建物疎開に従事し、全労働者の4分の1が学徒動員の学生であったとも言われている。

広島で散った  
 大竹の若い命

## 動員 学徒

としていた。また、後発の大竹隊は、己斐駅から目的地の小網町に向かうため、己斐橋を渡って福島橋へと向かっていた。そして迎えた8時15分。原子爆弾の爆発により、まちは一瞬で焦土と化し、玖波隊、小方隊、大竹隊の先発隊は、ともに爆心地に近かったため多くの行方不明者、負傷者を出した。玖波隊と小方隊は大竹に帰ってきた人もいたが、次々と亡くなっていき、全滅状態となった。大竹隊も先発隊の死者・負傷者が多く、80人を超える人が亡くなるなど、大きな被害を出した。



(右)原爆ドームの南側に建立されている動員学徒の慰霊塔。これから伸び行く若者が命を絶たれたことから、塔は逆三角形のような形状となっている。  
 (上)建物疎開を描いた絵。空襲による延焼を防ぐために、市内中心部の約130の建物の取り壊しが行われていた。【所蔵：広島平和記念資料館】  
 【参考資料：大竹市史】

8月6日は、爆心地から1〜2キロの範囲内で建物疎開の作業が行われていた。数万人もの学生が作業を行っていたなか、原子爆弾が投下。爆心地から近かったこと、また、外で作業する生徒が多かったこともあり、多くの生徒が帰らぬ人となった。6,000人以上の生徒が亡くなったなかで大竹市域の学生も120人以上が犠牲となった。



記憶の跡

# 大竹と原爆

-the damage of the atomic bomb was in otake-

昭和20年8月6日、澄み切った青空。深夜から空襲警報が発令されるも、朝には解除され、多くの市民は防空壕や避難所から帰宅し、いつもの生活に戻りはじめていた。あの瞬間までは――。

閃光と轟音――一瞬でまちが消えた

# 広島

昭和20年春、アメリカで始まった原子爆弾の投下目標都市の検討。7月25日には、広島、小倉、新潟、長崎の4都市に選ばれ、8月2日に、広島が第一目標に決定した。  
 8月6日運命の日。広島市の東北方向から、上空に現れたB29爆撃機「エノラ・ゲイ」は、当時はT字橋であった相生橋を目標に、人類初となる1発の原子爆弾を投下した。

爆弾は、広島県産業奨励館（今の原爆ドーム）の近くにあった島病院の上空約600メートルで爆発。すさまじく光を放った後、轟音とともにまちを襲ったことから、当時の人々は「ピカドン」と呼んだ。爆発による熱線と放射線、衝撃波は、一瞬にしてまちを破壊し、まちの中心にいたおびただしい人々が、逃げる間もなく亡くなった。  
 熱風と衝撃波は、まちの泥やチリを巻き上げ、また火災によるススや暖められた空気と一緒に上昇し、空気中の水と混ざって、黒い雨をまちに降らせた。

人類初の原子爆弾が投下された広島。アメリカが広島を目標に決めた理由の一つが目標都市の中で唯一連合国軍の捕虜収容所がないと思われていたことがあった。目標に決定した広島は、原子爆弾の投下まで空襲が禁止されていた。そのため、広島の人々は日本の多くの都市が空襲されるなかで、大規模な空襲がないのを不思議がっていたとも言われている。写真は安佐南区古市から見たきのこ雲。【写真：広島平和記念資料館提供】